地域おこし協力隊
活動レポート

協力隊が行く！

８月から、新たな協力隊員が着任し、枕崎市の協力隊員は、３人になりました。
今回は、新協力隊の大橋さんに自己紹介をしてもらいました。

自己紹介

初めまして、８月から地域おこし協力隊に着任しました、大橋佑輔と申します。

草加せんべいで有名な埼玉県草加市出身で高校は埼玉県立春日部東高校、大学は法政大学経営学部へ進学しました。卒業後は内資・外資のＩＴ企業で約15年、自動車をはじめ製造業の顧客のデジタル化やＤＸ化を社内外のシステムエンジニアや社外のパートナー企業を巻き込み営業として主導してきました。

なぜ枕崎に？

もともと好奇心旺盛な方で、小学生の時に子ども新聞に載っていた愛媛県の夏休み島留学に単身参加し、現地の小学生と交流したり、初の海外訪問がいきなりアメリカへの交換留学など、やりたい！と思ったら行動せずにいられないタイプです。

出身の草加市や大学以降は東京都など、いわゆる都会での暮らしが長かったのですが、毎年のお盆や年末年始に岡山の祖母の家に行くのが楽しみでした。埼玉から電車や新幹線、バスを乗り継いで12時間かかる（枕崎に行くより遠い…）場所なだけあって山や川、田んぼに囲まれたのどかな地域で、採れたての野菜を食べたり魚取りをしたことが地域移住への原体験になっているかもしれません。

地域のことをもっと知りたいと思い参加していた首都圏と鹿児島市民のコラボレーションワークショップで鹿児島の地域や人、食に魅了され始めていたところに、たまたま見つけた枕崎市の地域おこし協力隊の空き家活用・移住交流促進担当の募集。これは天職だと思い応募しました。都心での会社員生活からいきなりの転職・移住宣言で家族や同僚、友人には驚かれ、強い反対に遭うこともありましたが、やってみたい！という好奇心は変わらず、着任させていただくことになりました。

枕崎に来てみて

８月に来たばかりでまだまだ枕崎初心者の私ではあるのですが、驚いたのは肉魚野菜の美味しさ!!スーパーで買った腹皮を炭火焼きにして海を見ながら白波といただいた夜は、枕崎に来て良かったなと心の底から思いました。

移住・交流、関係人口創出、空き家活用をミッションとしている私ですが、まずは関係人口創出を目的としたＦａｃｅｂｏｏｋグループ「チーム地元！枕崎２万人プロジェクト」に日々の活動を発信していきますので、ぜひ参加いただければと思います!!

市長コラム vol. 41

3年ぶりの「きばらん海」

３年ぶりに「きばらん海」が帰ってきました。

８月６日、一日限りの開催ではありましたが、多くの関係者のご協力のもと「さつま黒潮『きばらん海』枕崎港まつり」を枕崎漁港エリアで開催することができました。これまで２年間は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により漁港エリアでのまつり開催を中止していましたが、会場もコンパクトに時間も短縮して、さまざまな感染予防対策を施し、知恵を絞って行った、ある意味「新たな、きばらん海」の形が出来上がりました。それでも会場に流れる空気には、きばらん海ならではの独特の空気があったと思います。会場に足を運んでくださった多くの市民の皆さんの笑顔にまつり運営に携わったスタッフも疲れが吹き飛んだのではないでしょうか。

とはいえ、８月上旬の全国での感染状況は深刻で、本市でも祭り前３日間で１００人を超す陽性確認がみられるなど、感染予防の徹底が求められる、まさにウィズコロナ下の開催となりましたので、開催する側としても複雑な気持ちはありました。高齢の方や、医療に従事される方など、まつり会場に行きたくても行けない多くの方がいらしたのも事実です。そんな中、15分という時間でしたが、提供事業者・団体の皆さんの多大なご協力により、遠く会場の外からも見られる花火が打ち上がったことは多くの市民の皆さんの心に届くメッセージになったのではないかと思います。

感染症が確認されて３年目を迎えています。さまざまな難しいこともありますが、これまで蓄えてきた知見をうまく活用しながら、状況を冷静に寛容に見極めて一歩一歩前進してまいりましょう。今年のきばらん海開催にご尽力いただいた全ての皆さんに感謝いたします。